

小長谷城

「小長谷城」は「小長井城」または「徳谷城」とも呼ばれ、鎌倉時代後期1293年(永仁元年)に、無双連山にあった土岐城(徳山城)の支城の一つとして、駿河と遠江を結ぶ山間部交通の要衝の地に自然の要害を活かし、当地を治めていた土岐一族の小長谷則詮により築城したとされています。

その後、1353年2月に、南朝方の残党をかくまった土岐城は北朝方の今川軍により落城し、戦いに敗れた土岐一族は敗走し、それ以降、当地域は今川氏が支配することとなり、小長谷氏は地域土豪として今川氏の配下となりました。

時代は下って、1560年(永禄3年)桶狭間の戦いで今川義元が織田信長に敗れたことを契機に甲斐の武田氏は度々、駿河国を侵攻しました。田中城(藤枝市)、高天神城(掛川市)などを攻めるとともに、諏訪原城(島田市金谷)などを築城しました。

武田氏は、大井川中流部交通要衝の地に在った小長谷城に着目し、駿河、遠江、甲斐を結ぶ拠点として、大規模な築城工事を行い、その後、1582年(天正10年)武田氏滅亡の頃と前後して、当時の城主小長谷長門守政房によって廃城になったものと推測されています。

武田氏に関する町指定文化財



町指定有形文化財古文書／武田家朱印状

1572年(元亀3年)の7月2日、武田信玄が家臣市川備後守を通じて、徳谷天王社頭の神木伐採を禁じた朱印状

小長谷城に関する資料年表

鎌倉時代	1293年(永仁 元年)	小長谷山城守清房の子孫長門守則詮が小長谷城を築城したと伝えられている。(土岐城の支城)
	1322年(元享 2年)	7月、長門守源則詮死去(焼津市岡部町:小長谷精市家霊簿)
室町時代	1352年(正平 7年)	落合城(現島田市)は、北朝方今川範氏の攻撃により落城する。城主土岐四郎左衛門は、一族土岐山城守のいる徳山城に逃れる。(旧本川根町史資料編)
	1353年(正平8年・文和2年)	今川範氏、土岐一族の居城徳山城を攻める。範氏の徳山城攻撃別働隊として、伊達景宗が護国土城(現富士城)を攻める。2月13日落城、つづいて徳山城も25日落城。(「静岡県城址史」)
	1416年(応永23年)	今川了俊、高天神城(掛川市大東町)を築く。
	1501年(文亀 元年)	小長谷城内に守護神として、須佐之男命(徳谷天王)を祀る。(「神谷幸恵取調上帳」、旧本川根町:神谷修史家所蔵)
	1560年(永禄 3年)	今川義元、桶狭間で織田信長に破れる。
	1567年(永禄10年)	武田信玄、長男義信を切腹させる。
	1568年(永禄11年)	武田氏の駿河進攻により今川館は焼失、今川氏真はわずかな家臣とともに「土岐の山家」へ逃れる。館焼跡に北条氏の家臣に混じって小長谷氏に混じって小長谷氏が見える。(甲用軍艦)
	1570年(元亀 元年)	武田信玄が田中城(藤枝市)を攻略する。
	1571年(元亀 2年)	3月、武田信玄、高天神城(掛川市大東町)を攻める。
	1572年(元亀 3年)	7月2日武田信玄が、その家臣市川備後守を通じて徳谷天王(小長谷城の鎮守神社)神主宛に朱印状を出す。(神谷修史家所蔵) 11月、武田信玄、小長谷山城守に軍功を賞して知行三貫目を与える。(焼津市岡部町:小長谷精市家所蔵)※12月、三方原の戦
安土・桃山時代	1573年(元龜4年・天正元年)	4月12日武田信玄死去。秋、武田勝頼諏訪原城(島田市金谷町)を築く。
	1574年(天正 2年)	武田勝頼、高天神城を囲みを攻略する。
	1575年(天正 3年)	武田勝頼、長篠の戦いで織田信長に破れる。
	1577年(天正 5年)	小長井長門守、安倍大藏と連合して水見色(静岡市)の朝比奈氏を攻める。(旧本川根町:望月平八家所蔵)
	1578年(天正 6年)	徳川家康、武田氏の立て籠もる田中城を攻める。
1581年(天正 9年)	7月2日記、小長井山城守定近までの「小長井系図」保存(旧本川根町:小長谷良夫家所蔵)	
1582年(天正10年)	武田勝頼死去。武田氏滅亡の頃と前後して小長谷城主長門守政房によって、小長谷城廃城となる。※本能寺の変により、織田信長死去。	
1585年(天正13年)	7月2日、小長井山城守定近、駿州岡部陣屋にて死去。(旧本川根町:松岡正臣家所蔵)	
江戸時代	1601年(慶長 6年)	「徳谷天王領高五石は、神主自身が管理せよ」という文書が藤川村(現、小長井)居住の小長谷学仙から当時の神主宛に出された。(神谷修史家所蔵)
	1619年(元和 5年)	明神牛頭天王(徳谷天王とも称し、徳谷神社のこと)再建。(棟札)
明治時代	1870年(明治 3年)	徳谷神社と改称。(榛原郡神社誌) ※小長谷と小長井は資料のまま記載



川根本町教育委員会

〒428-0411 静岡県榛原郡川根本町千頭1183-1
TEL.0547-58-7080 FAX.0547-59-3116

川根本町
公式ホームページ



川根本町指定文化財

小長谷城址



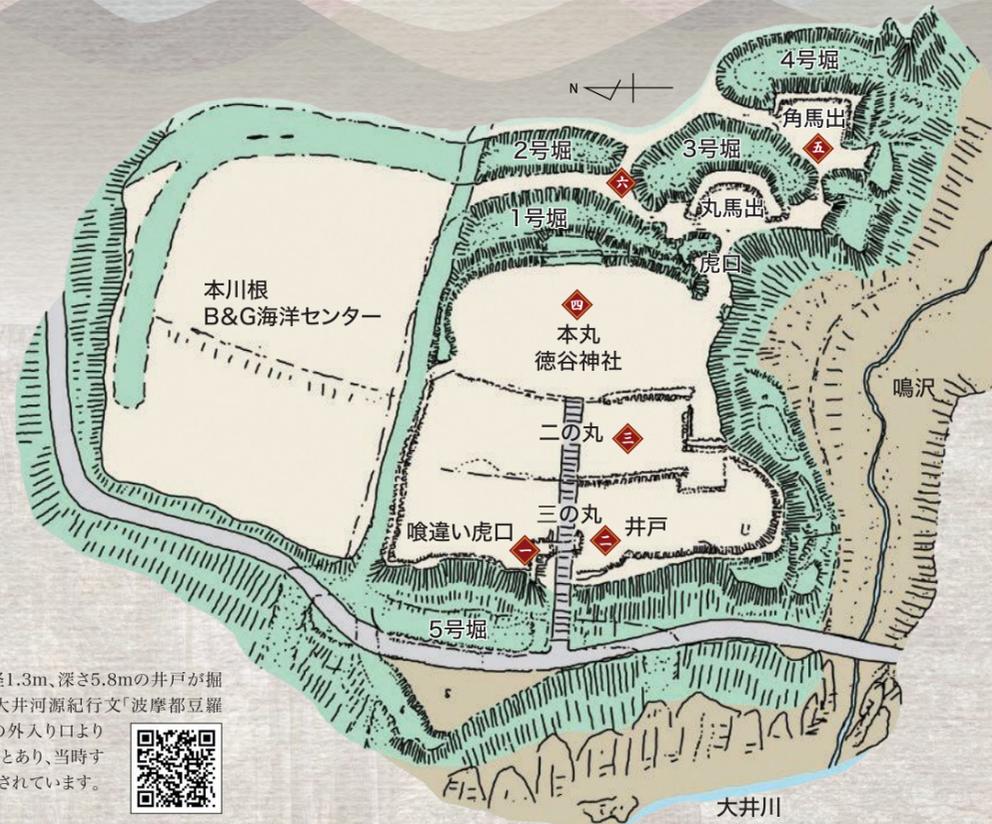
川根本町教育委員会

小長谷城址遺構

小長谷城址は、大井川中流部の川根本町東藤川に位置し、戦国時代(1580年代)に甲州武田氏が大規模な改修工事を行った小長谷城の一部(南側部分)で、武田流の築城術が色濃く残っています。

この城は、大井川の河岸段丘にあり、東側に山を控え、北側は小長井集落から50mほど高い崖地、西側は大井川から60mほど高い崖地となっており、南側は深い鳴沢溪谷に囲まれた自然の要害の地に作られました。

城は、南北約200m、東西約200mの広さがありましたが、北側の半分は小学校の敷地として整地され、現在は本川根B&G海洋センターが建っています。南側は徳谷神社の境内地となっています。



一 喰違い虎口

城の出入口は敵兵の進入口ともなり得るため、堅牢にする必要があります。小長谷城址には通路を屈曲させた出入口「喰違い虎口」の跡が残っています。屈曲させることで、敵兵が侵入してきた時に横矢を射かけるなど、防御力を高める工夫がなされています。



二 井戸

三の丸には非常時に備え、径1.3m、深さ5.8mの井戸が掘られています。桑原黙齋の大井河源紀行文「波摩都豆羅(1812年)」に「～右手一重の外入り口より右に古筒井(井戸)の跡あり」とあり、当時すでに古井戸であったことが記されています。



小長谷城址の解説動画

各スポットの紹介から始まります。



三 曲輪・土塁

曲輪は城の陣地(区画)のことで、平坦に整地され周囲を防御のために土塁が築かれています。徳谷神社殿が鎮座する場所が「本丸」、その前に2段の広場として「二の丸」、「三の丸」の曲輪が設けられ、詰所や倉庫などとして使われていたものと思われる。



四 本丸

本丸跡には徳谷神社が鎮座しています。創建年代は不詳ですが、1619年(元和5年)に再建されました。小長谷氏の守護神として須佐之男命が祀られ、天照大神、底筒男命、中筒男命が合祀され「徳谷大王」と唱えられていましたが、明治3年に徳谷神社と改称されました。



五 丸馬出・角馬出

馬出は、城の虎口(出入口)より外側に設けられた防御陣地(曲輪)のことで、小長谷城址では、丸馬出、角馬出が二重に設けられています。東側に残る半楕円の曲輪丸馬出し、錠状の角馬出しは、武田流の築城術の特徴がうかがえます。



六 空堀

空堀は、城を取り囲むように設けられており、東側には3号堀、4号堀が二重に作られ、ここにも武田流の築城の跡が見られます。2号堀は東側から北側に続く「外堀」として、1号堀は「内堀」として西側の5号堀に続いていたものと想定されています。



VR画像
(360°カメラ)で
小長谷城を巡る

